

オレゴンへの道その2・世界陸連からエントリー資格選手発表

- 木曜日 - 30 6 月 2022

1年間の記録認定期間が6月26日で終わり、6月26日現在の世界ランキング(①のURL)とそれをもとにした世界陸連からのエントリー資格選手(②のURL)の発表がありました。

① <https://www.worldathletics.org/world-rankings/100m/women?regionType=world&page=1&rankDate=2022-06-26&limitByCountry=3>

② [Road To | World Athletics](#)

以前にご紹介したように、日本選手の選考条件は以下のようになっており、今回の世界陸連からの世界ランクによる資格選手の発表で最終的な代表選手が決定することになります。

2022年 オレゴン世界陸上競技選手権大会 出場資格条件

- ①参加標準記録(記録達成者および指定競技会の上位入賞者、承認されたエリア選手権優勝者含む)達成した選手
- ②ワイルドカード資格取得者(前回優勝者など)
- ③承認された予選免除者(開催国枠出場者など)
- ④各種目のターゲットナンバーから上記①～③の合計を差し引いた数に収まる世界ランキング(2022年6月26日現在)上位者

日本陸連の世界選手権派遣条件

- ①参加標準記録突破選手が日本選手権で3位以内に入る
- ②世界ランキングで資格を得た選手が日本選手権で3位以内に入る
- ③上記条件のうちさらに、参加標準記録突破選手のうち、日本選手権の順位や参加標準記録対象期間内の記録順位などを参考とする

まもなく日本陸連から、代表選手についての最終発表があると思いますが、その前に代表選手の予想をしてみたいと思います。昨晚から今朝にかけて、ランキングを調べて表を作りました。

すでに内定済の選手については、以下の選手が選ばれています。

男子 100m サニブラウン、坂井 5000m 遠藤 110mハードル 泉谷、村竹 400mハードル 黒川
3000メートル障害 三浦、青木 走幅跳 橋岡 マラソン 鈴木、星、西山 20Km競歩 池田、高橋、
住所、山西(ワイルドカード: 前回優勝)、35Km競歩 川野、松永、野田、

女子 1500m 田中 5000m 廣中、田中 10000m 廣中、五島 マラソン 松田、一山、新谷
20Km 競歩 藤井、岡田 35Km競歩 園田

男子のトラック種目で世界ランキングにより選出されそうな選手は、200mの上山、小池、400mの佐藤、川端が世界ランキングと日本選手権3位以内の両方の条件を満たしています。標準記録と世界ランキングの両方の条件を満たしているのは、10000mの田澤と110mハードルの高山で、おそらく選出されると思われます。世界ランキングの資格だけを勝ち取ったのが、400mのウォルシュ・ジュリアンと3000m障害の山口です。選出のためには日本選手権の成績を選考条件の中でどのように位置づけるかがポイントになります。

以上が 6 月 29 日に世界陸連から発表されたランキングによる出場資格を得た選手達です。これ以外に日本は男子および混合のリレーで出場権を得ていますので、リレーメンバーとしてそれぞれ若干名が選出されると思います。

なお最終ランキングで **TOP10 入りした日本選手**は、男子では 3000m障害の**三浦**、走幅跳の**橋岡**、20Km競歩の**池田**、**高橋**、35Km競歩の**川野**、**松永**、**野田**、女子では、1500mの**田中**、35Km競歩の**園田**でした。選手選考が待たれます。

7 月 1 日 追記 日本陸連から最終的な代表選手が発表になりました。結局、世界ランキングで資格を得た選手のほとんどは、日本選手権の成績に係わらず代表選手として選ばれました。例外は男子 110mハードルで、ランキングでは上位の**高山**選手ではなく、ランキングでも圏内で日本選手権 3 位の**石川**選手が選ばれたのと、女子 10000 メートルでランキングにおいて日本人最上位に挙げられていた**不破**選手ではなく、ランキングでは日本人で 5 番目の**小林**選手が選ばれたことでした。それぞれ事情があり、選考としては順当なところだと思います。リレーメンバーについては、選手名は省略しますが、ほぼ日本選手権の成績に従い選出されたものと思います。